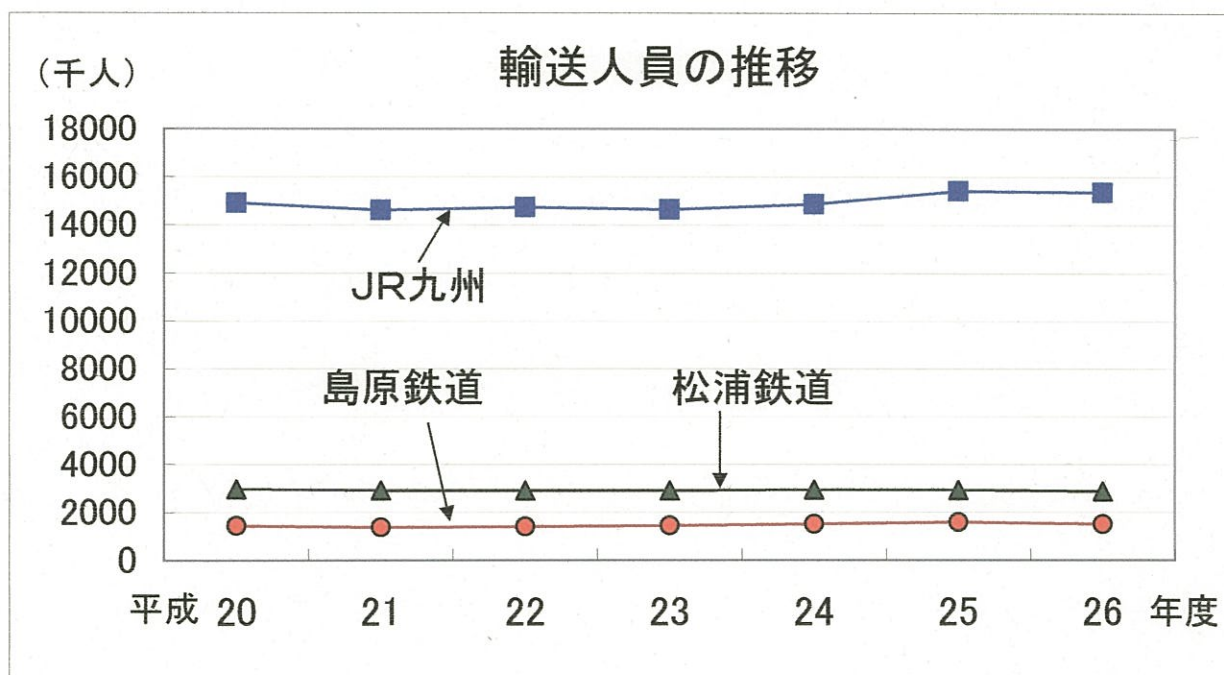


鉄道利用の概況



県内鉄道の緒元

(平成27年4月現在)

鉄道会社	営業キロ (km)	駅数	複線化キロ (km)	複線化率 (%)	電化キロ (km)	電化率 (%)
JR九州	127.2	37	8.1	6.4	60.8	47.8
島原鉄道	43.2	24	—	—	—	—
松浦鉄道	93.8	57	—	—	—	—

※松浦鉄道(MR)は、全線に係るもの

利用者数の推移

(単位:千人)

平成(年度)	20	21	22	23	24	25	26
JR九州	14,898	14,608	14,729	14,638	14,859	15,407	15,353
島原鉄道	1,443	1,368	1,397	1,445	1,514	1,583	1,509
松浦鉄道	2,957	2,907	2,898	2,902	2,931	2,928	2,864

※JR九州は、県内各駅の乗車人員の合計

※島原鉄道と松浦鉄道は、全線各駅の輸送人員の合計

※松浦鉄道は、長崎・佐賀両県の利用者数

本県に路線を有するＪＲ九州、島原鉄道、松浦鉄道は基幹的な輸送機関として、地域の均衡ある発展と利便性の向上のため、輸送力の増強と輸送サービス改善に努めている。

ＪＲ九州は、全事業において安全を基本に、より一層のサービス向上に努め、鉄道利用促進に取り組んでいる。平成２７年８月から久大本線および大村線において、Ｄ＆Ｓ列車「或る列車」の運行の開始、地域のイベントと連携したＪＲ九州ウォーキングの実施など、地域に密着した顧客サービスの向上を図っている。

県内各駅における平成２６年度の総乗車人員は１５，３５３千人で、対前年度比９９．６％と前年を若干下回っている。

島原鉄道は、島原半島の主要な公共交通機関として、朝夕の通勤・通学時間帯の列車増便、並行路線のバスとの運行調整や諫早駅でのＪＲ接続便やバス乗り継ぎ時間の見直し等により、利便性及び顧客サービスの向上に努め、島原観光の振興にも寄与していたが、近年、地域の少子高齢化の進行、マイカーの普及により輸送人員が減少していた。

会社は経営合理化等改善に取り組んだが、赤字の主因である鉄道について改善が見込めず、地域と協議を行い、利用者が少ない南線（島原外港駅～加津佐駅間）を平成２０年４月１日廃止し、路線バス輸送へ転換した。

輸送人員について、平成２１年度から増加傾向にあったが、平成２６年度は１，５０９千人で対前年度比９５．３％と前年を下回った。

松浦鉄道は、地域に密着した公共交通機関として、朝夕の通勤・通学に重要な役割を果たしており、安全運行確保を目指し、平成１６年度から施設設備の整備事業に計画的に取り組んでいる。

また、地域の利用者の利便性向上のため、運行ダイヤの見直しや通勤・通学時間帯への快速の増便や観光快速の導入など利用者増加へ向けた営業努力を重ねている。

輸送人員について、平成２２年度から増加傾向にあったが、平成２６年度の輸送人員は２，８６４千人で、対前年度比９７．８％と前年を下回った。

今後の安定した経営基盤の確立のためには、利用者の増加対策や安全運行の確保、車両等設備の近代化が必要であり、より一層の経営努力と地元関係者の積極的な協力が不可欠となっている。

（県新幹線・総合交通対策課）